

## 足立コンシェルジュ養成講座第2回記録

主催：足立ほがらかネットワーク

日時：平成22年1月16日（土）午後1時30分～4時

場所：足立区生涯学習センター（学びピア21）5階研修室

講師：基調講演 ジャーナリスト 昼間 たかし

パネリスト：足立区広報課課長 中村 敏夫

公社ニュース「ときめき」編集長 竹内 吉晴

ケーブルテレビ足立プロデューサー 折田 康男

足立よみうり新聞編集長 中川 美知子（メッセージ参加：別紙）

足立朝日記者 市川 和美

参加者数：一般12人、会員12人

はじめに、福田事務局長から足立ほがらかネットワークの活動内容等について説明があり、足立コンシェルジュ養成講座の主旨説明のあと、昼間たかし氏から基調報告として「足立区のイメージと情報」について説明があった。その後昼間氏をはじめ各パネリストを中心にパネルディスカッションが行われた。なお、講座終了後、希望者と共に、勝専寺（通称赤門寺）お閻魔様を目標に千住の街並を散策した。

基調報告の内容については以下のとおりである。

添田会長（司会進行）

事務局長からご報告いたしましたように、私達の活動は徐々に広がりを見せております。

今日は、我々のコミュニケーション事業のうちの足立コンシェルジュ養成講座、その第2講、ということです。今朝の朝日新聞の勝間和代の、人生を変える言葉、という中に、人生が巧くいく人となかなか巧くいかない人の差は、自己評価かどのくらいしっかりできているかに尽きる。ということが書いてありました。足立区が巧くいつているかどうか、我々の活動が巧くいくかどうかということも、我々の置かれている区の状況をどれだけしっかり自己認識しているか、ということかな、と思ったりします。客観的に俯瞰してみた自分のイメージを作り、そのイメージのもとに自分を評価する習慣を身に付けると、とても人生が巧くいくそうです。僕は勝間派というより、どちらかというに加山リカ派なんですけれど、こんな言葉が今日の新聞に載っておりました。我々も今、足立区を見据えて、そしてこれから地域に会議した団塊世代として、どんな活動ができるのかということ、皆様のお話を聞いて勉強させていただきたいというふうに思っております。

まず始めは、昼間たかしさんの「足立区のイメージと情報」について、ご報告を受けたいと思います。昼間さんは、こういうあの、最近足立区についての本を2冊、立て続けに出されました。けっして我々にとって心良いようなイメージが展開されているとは思いません

ん。従って今日は、無傷で帰れるかどうか心配しておりますけれど、外部から見た足立区のイメージというものを一応、自己評価しないといけないということで、しっかりと語っていただいて、それに対して、では実際地域のメディアはどのように発信しているのか、我々がどのように自己評価して、実際の活動に繋がられていけるのかどうか、ということについて、皆様とお話しをしていきたいというふうに思っております。では昼間さん宜しくお願いいたします。

#### 昼間たかし氏 「足立区のイメージと情報」基調報告

ご縁がありまして、添田さんからお呼びいただきました昼間です。この間打ち合わせをして、無事無傷で帰れたので、今日も帰ればいいな、簡単に自己紹介しますと、一応ジャーナリスト、作家という肩書きでございまして、今年から東京大学の情報学科、昔の新聞研究所が名前が変わっておりますが、そこで研究生をやっております、メディアの研究をやっておりますので、様々、ディスカッションしていければと思います。地域評価シリーズという、足立区を出したら、足立区は4刷ということで好評だったので、何故か仕事が出来まして、葛飾区、杉並区、新宿区、大田区などをやっております、いま足立区の続きを早く出せ、ということで、編集者にケツを叩かれて書いておりますが、今月末までに書けと言われておりますが、まだ30頁くらいしか書いておりません、この前180頁ありまして大変です。私、足立区との関わりですが特に、別に住んでいたわけでもないのですが、佐野シンイチさんがあの「ルポ広い仮想社会」を書いた所、評判になったのが数年前ですが、あのころから丁度、下流社会が一種の、マスコミが記事にする中でブームになって、仕事をして関わっているうちに、何か面白いな、と思って自分でもいろいろ歩いておりましたら、● 出版社が出来ましてので、書いてみたというのが実態なのですが、実際散歩して歩いていて面白いので、地井散歩とかもね、毎日見ているんですが、この間、西新井から西新井大師を歩いたやつは、線路沿いを歩いているだけで、果たしてあれで足立区を歩きたくなる人がいるのか、イマイチ疑問だったのですが、あれはあれなんで、足立区のイメージということで語れと言われたので、キーワードを3つ一応並べてみたんですが、やはりあの、ここ数年足立区のイメージというと、まだ貧困が多いということで、生活保護世帯が溢れているのではないかというイメージを持たれている、もう一つがやはり高い犯罪率ということで、犯罪率は実際、この後話しますが、多いのもありますが、むしろ足立区で様々、ここ数年で痛ましい事件が起こっております、それに絡めて足立区というのは非常にこの、危険なアンダーグラウンドの層ではないかという、僕なんぞ新宿区とか大田区とか、そもそも危ないところに沢山住んでいることが多かったんで、まあ歩いてみてもそれほどでもないのですが、先日八王子出身の女性とお話をしましたら、東大とかで会ったら当然勉強しかしたことがないような人なんだと思うんですが、足立区というところに女の子を一人歩いていたらレイプされるのではないかと本気で言っていたので、大丈夫かと、幾らなんでもそんなことは無いと思うので、今度足立区ツアーをやる

うと思っております。いずれにしても、そういうネガティブなイメージしか持たれていないのが残念ながら今の足立区ではないかということで、ネガティブなイメージを表装したら、現したらこんな表紙になってしまったということなのですが、とにかくママチャリでおばさんが暴走していると、そしてヤンキーがいっぱいいると、ママチャリで暴走している人もそんな少ないだろうと、僕も今日来る時に慣れていないのか2回くらいママチャリに轢かれかけまして、大変な町だなと思いました。それに絡めてなんですが、こういうのを出すと関連した仕事があるんですが、やはり、ネガティブなものが多くて、足立区で発生した事件が様々、老人同士で隣人を殺してしまうとか、一家心中とか、そういった痛ましい事件がちょくちょく有りましたが、そういった事件の結果というか後追的に地域の成り立ちから書いたテレビとか依頼とか、あと「ルポ仮想社会」の佐野シンイチさんの責任なんだろうけれど、テレクラで売春している人妻が沢山いるのではないかと、是非それを調べてくれということで、僕もこの本を書く時には風俗ネタは一般書籍なんでナシと言われてテレクラというのが何処にあるのか見てみたら、足立区だとテレクラがなくて竹の塚に1件しかなくて、そこに3日くらい籠っていたんですが、同じ人が3回も4回も電話してくるんで、そんなにいないんじゃないかなというのが印象なんですが、それでもやっぱり誰もが足立区を貧困の巣窟として見ているのが現状のようで、ある意味で、北千住はまだ都会、南千住とかここ数年でかなり再開発が進みまして都会なんですが、やはりこの川を越えると、その先には貧困に溢れた地帯があるのではないかというのが、行ったことのない東京都の足立区以外の人々のイメージではないかと思っております。佐野シンイチさんに一回お会いした時に、この「ルポ仮想社会」の話をしていたら、最近皆んな川を越えると貧困が溢れているように思っていてけしからん、と怒っていたのですけれど、恐らく佐野シンイチさんの責任ではないかと思うんですが、本人はそうは思っていないようなんです。今必要なのがこちらの本でやってみようと思っていたのが、実際に本当に沢山ヤンキーがいて、犯罪に溢れていて、もう食えないような難民みたいな貧乏な人が沢山いるのか、というような所を実態を一回実態を検証して見ないといけないという所で、さらに今日の話に絡めていいますと、その為にマイナスな面が実際あるとしても、もし無かったとしても、実際こういったイメージを持たれて足立区はちょっと東京でも違う所だみたいに思われていると、それをどうやって変えていけばいいのかという所で、メディアの力が必要になってくると思いますので、この●● 考えております。実際、本当に貧困に溢れているのかですが、東京都の生活保護世帯の約半数ぐらいが足立区に集中していると、日本という所はなかなか生活保護を出さないというのがここところのニュースで報道されていると思うんですが、それでも非常に足立区は生活保護世帯が多いと、続いて多いのが、やっぱり墨田、台東なんですが、やっぱり足立区は非常に多いと、実際数字を見てみても多いというのは確かなんですが、大体平成18年のデータを調べた所、東京23区で144,699人生活保護を必要としているらしいんですが、足立区にはそのうち18,724人がいると、これだと足立区の総人口が平成18年が624,544人であって、

大体100人に3人はつまり3%になるんですが他の区で調べたところ、港区だと1.01%、杉並区だと1.04%なんで、多いのは確かなんだろうと思うんですが、その中で調べていった所、どうも殆どが世帯で数えると単身者であるということで、どうも1人暮らしの老人とかそういった人がやっぱり中心ではないかと、ちょっと年齢区分をしているデータが見つからなかったのですが、そういった実際、様々どういう人が受けているのかというのを足で調べてみた感じは、単身者で老人で、そもそも高度成長期に東京に出て来て出稼ぎで食っていた、日雇いで食っていたような人が倒れていくと、仕事にあぶれた結果、60を過ぎた70歳になり結果、基盤の無い生活保護を受けているのが実態ではないかと思えます。これは実際日本各地で足立区に限らず起きている現象ですので、どうも足立区は家族で皆んな働かず貧困に喘いでいるというイメージがあるようなんですが、どうもそういった人は少ないんじゃないかと考えられています。同時に健康保険の加入数も低いという数字が有りますが、これは本当に最近貧困問題をメディアが取り上げるようになってわかってきていることなんです。足立区に限った問題ではなくて、毎月給料の中から2万も3万も払えない人が日本中で増えてきていることが実態のようです。その上で続いて犯罪率の話をした方がいいんですが、実際に犯罪が多いという話はよく、皆さん実際体感としてどうなのかはちょっと逆にお伺いしたいところだと思うんですが、どうなんですかね、添田さん多いですか？

うちは集合住宅ですけれども、やはり毎月とはいわないけれども2か月に1辺位自転車がなくなりますね。ああ、実際そうなんですか。やっぱり多いのが、放火が多くてあと自転車窃盗がやたら多いと。続いて傷害ということなんです。特に自転車窃盗ですが、自転車・オートバイを狙った窃盗が、足立区で平成18年度データで4,422件警察が認知した犯罪が起きておまして、事件が発生して警察に届出があった件数が全体の32%が自転車かオートバイ盗まれたということなので、これがやはり港区だと12%くらいで、杉並区だとやはり30%で、どうも住宅地だと起きがちな犯罪のようなんです。足立区は特に多いですが、盗まれるのはいいんですが、その代わり盗まれて来た時に戻って来た、自転車が見つかったデータというのを警察は取っておりまして、これを見たら盗まれたものが100だとした場合、戻ってくる自転車の率が31%で、10台に3台は持ち主の所に戻ってくるということがありまして、これが港区だと25%で、杉並区だとやはり30%を超えていないで20%くらいしか戻って来ないということで、足立区では自転車泥棒が。たぶんこれは想定に過ぎないんですが、なかなか自転車を盗んでいるという人に会わないので、ちょっとその辺に行くので、団地の誰かに借りたりして、それでその駅の辺りに放置してそのままにしている。そんな感じの犯罪が多いんじゃないかと思うんですが。まあそういったいわゆる殺人事件とか暴行・傷害、強盗とか、そういった凶悪犯罪に類するものというのは以外と起きていないということがデータを見ていくと明らかになるのですが、ただ、自転車窃盗が多いということは、逆に軽い気持ちで犯罪を働いてしまう人が多いということなので、これはやはり住民のモラルが低いということは、否定できないというふ

うに考えておりますので、これは解決しないといけない課題である。モラルを下げている原因としてはやはりヤンキー文化が存在しているので、まあヤンキー文化は難波さんなんかは「●●ヤンキー文化論」を書いて、最近ですね、夙に注目されている文化なんですが、いわゆるどちらかというと中学・高校であんまり勉強しないでそのまま就職してしまうような人を中心として、消費されている文化領域なんです。最近ヤンキー文化で売れた本というと、ここ数年携帯小説が流行りましたが、本の形にもならず文章が少なく何だかよくわからない言葉を喋っているということで、非常に批判する向きもありますが、これなんか非常に売れた先が、東京の都心よりも周縁県から北関東あたりの20代30代ということで、分析していくとやはり今まであまり本を読まなかった人が買っているということで、文化としては異質なものなんです。難波さんなんかは「ヤンキー進化論」を書いた時には、こうした文化が日本にずっと通じてあると、これはもっと注目した方がいいと言っているんですが、あんまり肯定的に捉えるのはどうかなと思っておりまして、というのはやはりヤンキー文化というのが形態としては、こうした刹那的なものと中身の無いものと言っちゃっていいのかな、消費する文化に過ぎないので、そういった文化を享受している人が、実際になかなか社会のエリートコースあるいはエリート層には成り得ないで、やはりブルーカラーになる人が多いし、教養のレベルとしてもさほど高い人ということではないということで、カウンターエリートということが、だいたい対抗文化的な中で存在するエリートというか、素人ということで考えているんですが、実際ヤンキー文化を享受しているような人は実際社会の中で、実際中心的な役割をなかなか持ち得ないということで、足立区というとヤンキー文化ということでイメージが付いておりますが、これがあんまり付いているとやっぱり今後のいいことにはならないのではないかとこのように考えております。

あと、近年舎人ライナーも通りまして、さらに筑波エクスプレスも開通しまして、西新井なんか日新の工場が無くなりましたので、再開発が進んでおりました。ずっとマンションが建ってございまして、周辺にイトーヨーカ堂ができて周辺のスーパーと激安競争ということで、非常に活発になってございまして、この西新井のマンションを代表するようにマンションも建ち並ぶことで、新たに今まで足立区にいなかった階層の人々が流入してきていることは非常に、今まで足立区の中で非常にヤンキー文化だとかを享受して、夜中はドンキホーテで買い物をするような、●●ヤンキー中心にやってきた文化の変化をもたらす存在だとは思いますが、実際先程も申しましたように、商業施設がこうした住民が増えているということ、題材にして成り立つ理由として、どんどん増えてきてございまして、地域を実際ちょっとずつ変えてはいるんですけど、実際こうした新住民というか新新住民的な人々は、実際地域に対してどういう貢献をするかといったら、やはりお金は落とすでしょうが、基本的にこういった人々は都心に便利だからということで住んでございまして、足立区内で働くから足立区に何か愛着があつて住んでいるわけではないということなんで。こうした寝る為だけに帰る住民さんですね、彼等は。そうした人々が果たして足立区に愛

着を持って今後とも暮らしていけるかという、ちょっと疑問があります。というのも今足立区は去年の選挙の時の有権者の人数なんかを調べると、確かに新しく住んでくれる人の方が出ていく人よりも多いんですが、この差が大体2万くらいの域に留まっておりまして、つまり、新しく入ってくる人と、よりちょっと少ない人くらいは出て行っているという状況がありますので、非常に住民が流動的なのが現状であります。そんな中でいやになって出ていっている人と、都市に愛着を持たないというか足立区だったらマンションが安いからマンションが買えるか、ということで買っているような人が、このほがらかネットワークのやっているような地域の為に何かしようという意識になってくれればというきっかけは、現状はまだ見られていないと思います。そういった状況ですので、様々解決策があると思うんですが、確かに貧困の問題は取り敢えず、貧困部分なんかで、雨宮カンジさんなんかは一致させるとすごく言ったりしておりますが、実際僕はああいうのはちょっとと思ひまして、社会福祉が充実しても、その場は金とかメシとか食えて、凌げるんでしょうけれども、解決策にはならないのではないかと感じておりまして、やはり、近年もう一回教養というようなものを見直そうということが少しずつ言われておりますが、住民の教養レベル自体は底上げをしていた方がいいと思うんです。これは下流社会について、中央大学にかれた山田マサヒロさんなんかは、繰り返し言われているんですが、やはり、本を読まない家庭の子供は頭が悪いという意識が確実にあるので、そこから解決しないと問題は解決しないんで、ではどうしようかという話をされているので、これこそ地域で取り組むべき問題なのかなと思ひまして、教養が解決するということがイコール住民のモラルが向上していくことになると思いますので、じゃあいかにして教養を変えようかということで、下に生涯学習センターがあったんで、さっきタバコを吸いがてらいろいろと見てきたんですが、ここ数年足立区に様々東京未来大学が来ているのですが、下の階は生涯学習は資料とか置いてあったんで、さっきチラッと見てびっくりしたんですが、肝心の東京未来大学とか東京藝術大学とかのパフレットが全然無くて、他の上智とか早稲田がやっているような生涯学習の講座の資料しか置いてなかったんで、大学が足立区に来て、東京未来大学が出来たときなんか非常に喜ばれたそうなんですが、全然密着していないのかな、と思ひまして、実際東京未来大学に僕も何度か訪れておりまして、資料を一回請求したら、オープンキャンパスの案内をくれる様になって今のところ訪れているんですが、場所がらということもあるのですが、学生街というものが全く形成されておきませんので、実際大学が単に専門学校的にポツンと存在しているような状況になっています。本来文化というのは、大学というのを拠点にして、神田とか駿河台辺りなんかが頂点でしょうが、関連する安い食堂ができ、ジャズ喫茶のような一風変わったような喫茶店ができ、古書店などが建ち並びということで、大学から溢れ出して来る文化というものを周辺がカバー、作り上げる役目を果たす店とかが建ち並ぶという構図があるんでしょうけど、堀切はどうもラーメン屋がある位で、何もなし。ここの学生はどこでメシを食っているのという疑問に思うような感じで、同じことが東京藝大にも言われまして、東京藝大もようやく

できたわけですが、様々なシンポジウムをやっているらしく案内とかも貰うんですが、どうも足立区でやらなくてもいいんじゃない、北千住でやらなくてもというようなテーマのものが多くて、どうも藝大もたまたま土地が開いたかから作っただけではないかということになりかねない様相を含めてありまして、あと放送大学がこういっては何ですが、お年を召した方が多い場所ですので、お年を召した方だけでカルチャーセンターをやってもその中でやはり、もう一つ仕掛が必要で、今年帝京科学大学も出来るということですが、やはり学部も福祉に偏ってということで、今大学の在り方というのが様々論争になっているのですが、ひとつは職業教育専門に特化して就職させる為の入口として専門学校的な役割を果たすものと、あとは教養レベルをひたすら高める教育をやるということ、2系統ありまして、やはり前者の職業教育をやっている方が、当然この不景気ですので就職できない人が9万単位で現れているということで、人気を得ているんですが、そういった学校を作ってもやはり地域に貢献するものにはなっていないのではないかな、ということで、こういった大学は文化の拠点にならないということで、その上でじゃあ文化の拠点として何を創造するかということで、今日は話をしていけばということで、15分で終わりました。ということでいかがでしょうか。20分かかった？

どうも有難うございました。

今ですね、あまりポジティブなイメージの話は聞かれなかったのですけれども、やはり実際に、いま北千住を初め、若い人達が増えつつあるということだし、いろいろなイベントも増えつつあるだろうというふうに自分では思っております。それから、教養があるかはともかく、様々な企業で働いている人達が地域に戻ろうとしている。戻って何をするか。やはり新しい何かをしたい、地域に貢献したい、というような人達がたまたまグループを作って活動をし始めている、ということも確かだと思います。ただ、やっぱり若い力とか、そういう経験のある中高年、或いは地域に初めて出会った中高年がこれから何ができるか、まだまだ模索しなければならない、と思っております。それにつけても、そういう地域のイメージを、イメージに支配されるんですよ。人は。だもんでんすから、実際に地域でイメージを発信しているメディアである皆さん、どういうお気持ちでどういう形で情報を発信しているのか、それぞれのお立場から、ご報告とご紹介をお願いしたいと思います。

まず最初に足立区広報課長の中村敏夫さん、自己…

1A→1B (1本目反転) 紹介と、後から、ディスカッションをしていただきますが、今の話を踏まえて、

そうじゃないんじゃないの、何をいつてんのあんた、とかいうことも含めてお話頂きたいと思っております。

足立の広報課長をしています中村です。昼間さんとは以前著作を著した時に、区長へのインタビュー等を含めて私もやっておりました。今広報課長ですけども、当時私は報道担当の仕事をしていまして、区のいろんな事件、あるいは売りをどういったら報道機関に売

れるかな、というような仕事をしていました。今は広報課という所で、主に広報誌の発行ですね。各所帯に31万部を各個配布をして発行しているのと、区の公式ホームページを運営しています。それと合わせて映像広告というんでしょうか。ケーブルテレビ足立さん今日いらっしゃっていますが、ケーブルテレビ足立さんの協力を得ながら、ケーブルテレビにラグビーを放映したり、あるいは映像のコンテンツをホームページ、今でいうとヤフとかニューチューブも含めて映像のコンテンツを流している。というような形で、足立区をどうにか、イメージアップを図りたいということで、仕事をしております。いま昼間さんがお話になったところで、やっぱりちょっと違うよね、というのもありますし、今日は昼間さんと差し違えじゃないですけども、やはりジャーナリストの方は切り口は確かに目に引く様な切り口になりますけれども、さっき昼間さんがあげた貧困と、それから犯罪率、それからヤンキーという言葉はどういうふうな形で切り取っていくのか、はいろいろと受け止め方があると思うんですけども、一つの例を申し上げますと、犯罪については、確かに昼間さんがおっしゃるように、自転車泥棒が圧倒的に多い。件数から行くと都内ナンバーワンです。これはもう事実ですので、それを受けて私共のトップはビューティルウインドウで、自転車に限って言えばワンチャリ・ツーロックという形で、自転車泥棒を無くしましょう。ということをやっています。今回警視庁と協定を結んで、始めてなんです、警察ではなくて警視庁と行政が協定を結んで、犯罪を無くす町、住み良い町を作ろうということで、今後いろいろなアクションプログラムを作りながら、やっていこうという動きをしています。ですと件数はナンバーワンです。これは66万ある人口規模からすれば相当数の数かな。ただ、率からいくと確か10位前後だったような気がします。ちょっと正確な記録はありませんが、そういった状況もあるということです。それから貧困という問題ですね。貧困という言葉が皆さんどうイメージするかわかりませんが、私はたまたま足立区で仕事をしておりますが、生まれも育ちも今も茨城なんです。私が育った当時というのは貧困もなにもなくて、例えばバナナを食うのは、夏のお盆の時とか、そういった形でやっていました。東京都は大分違った状況なので、それが貧困だとは自分自身も思ってませんし、何をもって貧困なのかな、年収でどの辺の線引きをしていくのかな、と思いますけれども、そんな中で足立区というのは学生数は確かに多いし、就学援助も高い率を保っていますが、実際に生活する中でいえば、それが文化の基調を作っていくようなところまで、果たして貧困というのが色付けされているのかな、というふうには思います。それからヤンキーについては私自信勉強不足なんですけれども仕事柄街中を回ってみてもヤンキーといわれる子供、若者がどういった実態があるのかつかみにくいのですが、そういったイメージが足立区でされるというのがちょっとどうかな、という気もいたしました。とりあえず私共の宣伝というか、今の話を聞きながらの感想を述べました。

どうも有難うございました。個人的な印象では最近の広報は非常に問題意識の高い紙面作



りをしているのではないかと、というふうに思って感心してあるいは期待して読ましていただいております。どうぞ頑張って出していただければと思います。

次に、公社中心のニュースになるかと思いますがけれども公社ニュース「ときめき」の編集長、竹内吉晴さん宜しくお願いいたします。

「ときめき」の竹内といいます。宜しくお願いします。

今お手元に新聞を持って来ました。これが一番新しい新聞で1月15日号、シルバー人材センターの方が1軒1軒配っている新聞ですね。30万部、足立広報さんと同じように30万部です。私共の方は公社のニュースということで、基本的には足立区の役所でなかなかできない仕事をやるセクション、公社ですね。足立区勤労福祉サービスセンター「ゆう」というのが今、中小零細企業商店街なんかの福利厚生を代行するというので、非常に私も取材していて、いい仕事をしているなと思っているんですが、これの発行元ですね。足立のプルミエという所に本社がありまして、私の事務所はまた別の所にあるんですが、それと、街づくり公社という公社がありまして、これもプチテラスを作ったりですね、街づくりのいろんな団体を、自主的な活動を応援する助成金を出したりいろんなアドバイスをしたり、そういうことをする公社です。それから、こちらにもほがらか隊員にも参加していらっしゃる社会福祉協議会の事業を展開しているのも、こちらのプルミエの方に、それかあと、先程申しましたシルバー人材センターも、都内でも一番大きい全国的にも結構有名なようですけども、公社のシルバー人材センター、それから丸井のところの駐車場を運営している市街地開発という会社がありまして、それも一応うちのときめきに入っています。それ以外に、ちょっといろいろといきさつがありまして、前に「水と緑の公社」というのがあったんですが、それが加入していた関係で、土木部の公園関係のニュースが一応ときめきに入っています。ただし、今年の5月くらいからは広報に移りますが、それから産業経済のニュースが一応入っています。これは、前に私が特別職で入ったところが足立都市活性センターという、今私共の事務所があるところなんです、商店街連合会館があるところなんです、そこに第三セクターの会社がありまして、それがやっていたところが千住の街づくりとか、それから産業経済関係のニュースとか商店街振興とかいうのをやっていたんですね。そういうニュースが、私はそこに書いてありますように荒川区の町屋に生まれまして、尾竹橋を渡りまして一本目のところを左に入っていくところがあって、そこに住んでいまして、昭和22年生まれですからまさに団塊の世代で、第七狭田小学校を出まして、それでおばけ煙突が丁度目の前に見えて、当時は土手で、土手の上から千住の花火を見るという、それで凄く感動した覚えがあります。尚且つ、皆さん私なんかと同じ世代の方は同じような経験があると思うんですけども、とにかく遊び放題遊んで、尾竹橋を渡って荒川放水路までが当時池がありまして、そこで魚釣りをしたりして、殆どそこで遊んだという経験が大半ですね。足立区というのはそのころ子供でしたから意識していませんでしたけれども、非常に私の子供時代の性格を形成したところだと思っています。当時魚釣りをしていると、お金を取りに来るおばさんがいるんです。我々は「借金取り婆

あ」と呼んでいたんですが、大きながま口を持っていまして、我々が釣りをしていると、入漁料ということでしょうね、あるいは足立区の参加費じゃない、どういう素生のおばさんか未だにわからないんですが、まわって来るんです。私達はとにかくそのおばさんを見つけると、逃げろという感じで、竿を置いて知らん顔をしているみたいな感じで、とにかくそういうおばさんがいたんです。よく覚えています。そういうことを足立区は、ご承知のように、川が殆どすべて囲んでいる、このときめきにも書きましたけれども、四方を全部川に囲まれている区である。それで先程の昼間さんの話にも関連してきますが、公園が非常に多い。緑が多い。たぶん23区で3番目くらいですかね。公園が多いのがですね。多いというか面積が多いのがですね。そういう意味では今で言う癒しの空間が広がっている地域だと思うんですね。そういう所で私が生きてきたんで、それで尚且つ新聞社にいたんですが、それも下町担当記者ということでやっておりました。下町が好きで、台東、墨田、江戸川、荒川、足立の担当でありまして、今から3代前の長谷川さんという区長の時に記者会見していた人間ですけれども、先程の昼間さんの話を聞いていて思うのは、どうしても私マスコミにいた人間ですから、レベル付けとか、ランク付けが非常に好きで、決め付けるほうが面白いですから、実際ときめきで「うまいもの屋さん」というコーナーが3頁目に有りますけれど、これは非常にあの私共自分達スタッフで食べに行って、美味しいという点と、接待がちゃんときちっとできるという点で選んで載せているところで、非常に人気のコーナーなんですけど、食べ物でも、ラーメンでも本当に美味しいというのはそれぞれうちのスタッフでも3人食べに行ったら、3人とも評価が別れますよ。これは美味しいというのは、太麺が好きとか細麺が好きとか、それからスープも今先程言われたアリオの西新井の前の椿というラーメン屋が毎日のように並んでますけど、あそこは実はいまいもの屋に入っていないんですね。我々食べに行きました。そこら辺で、魚介のあれが強くてどうのこうのという、そういうイメージもあるし、人それぞれによって感じ方が違うのに、直ぐその何かのことを取り上げてそこを決め付けるという所があると思うんです。私は実際足立区が好きで荒川区も大好きで他の下町も大好きですし、山の手の記者もやりましたので、他の所も好きですけども、例えば犯罪という点でいえば、先程の話で全て犯罪があるみたいな、町を歩くと犯罪の人が歩いているみたいな感じでイメージ付けが強いんですけども、私は絶対そんなことは感じませんね。実際私の息子の自転車が1台、前大谷田に住んでいた時に盗まれました。盗まれましたけれども先程の話にもあったように1か月後ぐらいに、竹の塚の交番から電話が掛かってきました。防犯登録も有るんですがお宅の自転車があるよということで、取りに行きました。それから私の自転車も中古自転車でも盗むような自転車ではないんですけども、亀有駅に置いておいたのが盗まれました。そしたら大谷田何とかの人家の方が親切に電話掛けてくれて、お宅の自転車があるよ、ということで取りに行きました。もう1回去年実は割合新品の自転車を買ったんですが、それがずっと綾瀬の自転車置場で盗まれたのが未だ見つかりません。それは見つけようと思って今一生懸命捜している。そして、先程の話から言えば、本当に確かに自

転車泥棒多いんだけど、足が無いから乗って行っちゃう、というようなパターンですね。殆ど。本当にその自転車を盗んで売払って金儲けしようとかそういうところでは無いんですね。先程言われたようにモラルというのは確かに大切なんで、そういう位置付けというのはきちっとしなきゃいけない、それは教育の問題があるでしょうけれども、家庭での躾の問題もあると思います。それはきちっとやらなければいけないけれども、何かそれだけを取り上げてすべて犯罪が足立区で非常に多いというようなことをすぐに言い過ぎる気がします。それからヤンキーなんていうのも全然私も感じませんね。むしろ新宿の歌舞伎町だとかああいう所の方が怖いですね。私はそういう性格の人間なのかもしれないけれども、そういう癒しの空間が好きな人間ですから、あまりああいう所に行きませんけれど、そういう方が逆に怖い。何故かという、すごく頭脳を使って緻密にやる犯罪が多いから人の生き死にを左右するようなところをやる犯罪というものが非常に多いところなんです。それとか金融に関わる問題、そういうのが全て生活に関わってくるし、その辺をきちっと分析しないと、自転車の盗難が多いということだけで決め付けていいのかなということもありますし、ヤンキーのこともありますし、非常に私は足立区が大好きなんで別に役所がらみで言っているのではなくて、自分の子供時代のすべてを作り上げてくれた。おぼけ煙突、小津安二郎の東京物語に出て来ますけれども、私の性格を作ってくれた東京電力の火力発電所だったんですが、本当に勿体無いことをしましたね。もし足立区にお金があったらば、あれは足立区が買い取って残しておけば素晴らしい歴史的な建造物ですね。確かイギリス人が誰かが設計した素晴らしいもので、4本がこういう珍しい幾何学模様になっていて、何処から見ても1本に見えたり、2本に見えたり、4本に見えたりという、素晴らしい建物だったのですが、結局解体して今元宿小学校の校舎のところに滑り台になったりしていますけれども、今度その跡地に帝京科学大学ができる。ということもまた非常に、価値がそういう意味では拡がるという捉え方もできると思うんですが、そういう意味で私は先程の話を聞いていて非常に憤慨したき持ちです。ですから是非今度ゆっくり話をしたい。

どうも有難うございます。

このあと、地域新聞というのがありまして、足立よみうり、それから足立朝日のお二方も当初パネリストとしてお話頂くはずだったんですけども、いろいろ急遽何か支障が出たということで、足立よみうりの中川さんからはメッセージという形で文書を頂きましたので、一応代読させていただいて、地域のメディアの一つの在り方として、ご参考になさって頂ければと思います。

「足立よみうりの中川さんからのメッセージを代読」

資料4頁（添田会長代読） 略

足立よみうり新聞の中川さんからはこのようなメッセージを頂いております。

それから、足立朝日のデスク桜井さんにもお願いしていたんですけども、急遽なんか退社なさるということで、何か予定がくってしまっただけで今回も参加できなかったのは、とても残念です。結果的にむしろ広報とっていいのかな。純粋民間の新聞メディアの方が、この場に参加できなかったのは残念だな、と思います。それから、メディアとしては非常に新しく、しかも影響力の大きい映像メディアというんですかね、ペーパーメディアから映像メディアにイメージというものが非常に影響を持っているといえると思いますが、今日はもう一方、ケーブルテレビ足立のプロデューサー折田康男さんにお越しいただいておりますのでお話をお願いいたします。

どうも初めまして、ケーブルテレビ足立の折田といいます。着席で失礼させていただきます。まず、私ケーブルテレビ足立は、平成8年に足立区の綾瀬に会社を設立しまして、開局いたしました。今年で13年目になります。私共全部のエリアをカバーしております、現在ケーブルテレビ足立を介してテレビを見て頂いている方というのは、ざっくり足立区の人口32万世帯のうちの16万世帯、ですから凡そ50%が私共の電波でテレビを見ていただいているということになります。その中で私共のサービスとしては多チャンネルサービスということが中心となっております、これはテレビを最大で260チャンネル放送しております。全て260チャンネル見ていただいている方がいるかというのと、そうではなくて、凡そ基本的なご加入をしていただいている方が実際に60チャンネルくらいで、その中に地域情報を扱っている「あだちコミュニティチャンネル」というチャンネルがありまして、こちらの方を私がプロデュースしてですね、制作のスタッフと一緒に作っているというようなことになっています。このチャンネルというのが、いま地上デジタル放送とかが始まりましたけれども、そちらの海域でも放送しております、電波でいうと地上デジタル放送とアナログ放送という所の場所で放送させて頂いております。

コンテンツとしては、情報番組と企画番組というふうに大きく分けて、自分達で作っている番組は、主に4つの番組を作っております。企画番組としては、「ケーブルワイドADACHI」という番組があって、これは皆様方地域の方々が行うコンサートとか講演会であるとか、それを中継録画して放送する番組です。月に1箇所ないし2箇所取材させて頂いてケーブルテレビとして見て頂いています。この番組はほぼ講演の中身をすべて放送して、90分くらいの番組になります。参加していただいた方は、やはり見たいということで、問合せとかやらせていただきながら放送している番組です。

企画番組のもう一つが愛好的商店という番組でございまして、これは区内にあるお店、特にコンセプトとしては女性が行きたくなるようなお店というところにスポットを当てて、取材を重ねています。あと、情報系の番組としては、2つありまして、その一つが「慶子の時間」という私共の堀江慶子というアナウンサーがいて、生まれも育ちも足立区で、ケーブルテレビ足立に入る前はテレビ朝日さんとかテレビ東京さんの株式市況とか、そうい

った番組に出ていた女性アナウンサーですけれども、その方を前面に打ち出して、できるだけ内容をテンポをゆっくりとした番組で、お年を召された方が楽しく見て頂ける番組ということを目指しています。中身についてもできるだけ地域の方とのキャッチボールができるように、写真の投稿であるとか、お宅訪問であるとか、人物紹介であるとか、そうしたことを中心に流している。制作しています。特にこの番組については、他の番組もそうなんですけれども、ブログとの連動をすべてしてございまして、特にこの慶子の時間というのはブログの人气が高くて、1日に多い時は千件くらいのヒットおよび書き込みがあるということで、逆にいえばこの中で知っている方もいらっしゃるかなとも思うんですけれども、本当に地元で根付いてやらせて頂いております。もう一つ最後に、主力の番組なんですけれども「トピためっ！」という番組で、30分の日替わりの情報番組なんですけれども、こちらの方は、「トピためっ！」という名前がトピックスとエンターテイメントの造語で私達が考えて番組化いたしました。「トピためっ！」のための方はエンターテイメントの方はいろいろとレポーターとかキャスターが町の中に出て行って、いろいろと地元の方と触れ合ったり、それからお店を紹介したりというふうな番組なんですけれども、特に最近人気があるのが、良子日和とあって、中村良子というレポーターがいるんですけれども、その子が町の中に行って町会を歩いてお店を紹介したりとか、それからそこで働いている方々に触れ合ったり、ということでやらせて頂いています。「トピためっ！」のトピックの方なんですけど、トピックスは月に30箇所くらいのニュース取材ということで、トピックスというんですけれどもほぼニュースということで、取材させていただいて、月に30箇所ぐらいを回って、その中で地域で活躍している方々ですとか、イベントとか地域活動をいくつも紹介してやらせていただいているというところですが。そんなところが私達の番組なんですけれども、取材を通して感じることは、竹内さんからお話があったことが殆どなんですけれども、僕らも本当に昼間さんの話を聞いていて、そんなに悪い所ではない、はたからそんなに悪く見られているとも思っていないのが実態というか、気持ちなんです。ですから中でのイメージ付けもそうなんですけれども、これから外に発信していくというイメージ付けが大切になってくる。そうするとインターネットとか、中だけではなくて幅広く発信できるようなメディアも多く活用して、私達を作る映像コンテンツであるとか、紙面もそうですが、一つのところで発信するのではなくて、できるだけ幅広く伝えられることはどのようにしていけばいいのか、そうすることによって周りからの見方も変わってくる、ということではないかと思う。だから新しいテクノロジーがどんどん発達して、難しいものがどんどん出てくると思います。ホームページひとつブログひとつ作るのもまあかなり大変な作業かもしれないんですけれども、そうしたところが地道に勉強して発信する、私達の放送も昨年ぐらいまでは放送一本槍だったのでなんですけれども、すべての自分達が作る番組がブログとホームページに連動させて発信する。そうすることによって明らかにお便りとか、ご意見とかの数が飛躍的に伸びたということでして、…

1 B→2 A (テープ入れ替え：2本目へ) それに基づいて今番組構成というものをさらに

進めて作っている状況なので、ですから、どんどん番組もこれからは進化していくと思いますので、一つのをいろいろなメディアを使って発信していくことが大事ではないかと思えます。すいません、

あの、話があまりうまくないものですから。以上です。

(添田会長) どうも有難うございます。今いろいろなメディアということでしたけれども、今日はチラシの中にレジュメの中にさらに地域雑誌のメディアについて一応ご紹介しておきました。もう2年か3年前に無くなってしまった休刊状態なんですけれども、街雑誌「千住」というのがあります。これは地域の雑誌で20号までいってまして保存版まで残っている。ちょっとやっぱりあの情動的に古いものもあるかもしれないけれども、非常に町を愛している方達が作っている。そしてそれを支えた人達がいる町雑誌だったと思えます。それから「足立百景」というのがあります。これは、最初は「竹の塚百景」といっていたのかな。そういうものだったと思えますが、この3年ほどで「足立百景」となって、通算100号を迎えたそうです。その最新号のご挨拶も、一応メディアとして紹介されました。今日は足立百景の新しい編集長がいらしてますので、後からまたご発言をお願いしたいと思えますが、総じてペーパーメディアの地域のメディアはですね、経営的に苦しそうですね。よくわかりませんが、実態はよくわかりませんが、これは日本中どこでもそうだと思いますけれども、やはりデジタル化であるとか、インターネット、ホームページを作るのも発進力というのが、非常に最近は有効な力を発揮しているのかなというふうに思ったりもしますが、いま発言していただいたことすべて、ホームページと連動したビジュアルな画像を提供していらっしゃるというビジネス展開をしているのが特色かな、と思えました。このあとはいよいよ、ではどうなんだと、お互いにどんなことができるんだ、あるいはこんなことを、もし今日我々参加している会場の皆さんと一緒に、やれることがあるのか、ないのか、という話をしていきたいと思うんですけれども、ちょっとその前に5分ぐらい休憩を取らせていただきます。一応この、今日お話しはしていただいたんですけれども、文字として資料がついていますので、こんなのも多少参考にさせていただければと思えます。今日話合った実際この一番後ろからいきますと、朝日新聞だけなんですけれども、12月に全国紙に掲載された記事を選んでみました。スクラップしてみました。要するに、犯罪報道、それから予算で悩んでいる報道、というのが大きな2つの柱でしたし、それからあとは、町が好きだということであれば、その地域の風物詩というような形でも紹介されたりしているわけですね。ですから、今日は地域メディアの皆さんにいらっやっていますけれども、全国的にやはりイメージを発信していく、そういう機能も何か一緒に考えることができたなら、つまり、住んでいる人にとっては、自分達の姿が、肯定的に全国に展開するというのが、やっぱり非常に幸福感に繋がるんじゃないかと思えます、自分達の周りのことを自分達だけで満足していても、なかなか幸福感というか、地域の愛着力が湧かないかもしれないと思えます。折角メディアの皆さんも来ている中でそういう面も含めて、何か新しい提案というか、お考えがあれば、お話いただければと思えます。

それでは5分か10分位に間ちょっと休憩したいと思います。

## 5分休憩

それでは、第二部というわけではありませんけれども、今のそれぞれのご報告を受けて、さらにそれを今日この場ではお互いの意見交換を行っていきたいと思います。取り敢えずその昼間さんが最初におっしゃった中の、データ等について若干疑問があるという声がありますので、ご発言をお願いできますか。

さっき話が出た大学進学率はもっと高い40何%ですよ。

もうちょっとデータを整備します。

先程平成18年のデータが多かったけれども、もう大分たちましたよね。

だから続きをどう変わっているかを書けといわれているので、もう1回データを纏め直すということ。

メンバーの加藤ですけれども、日経ビジネスの来週の月曜号をタベ読んでいましたらば、足立区が23区の中で生活保護世帯が一番多いと、次が墨田区ですか。ただしその一番の論点を書いてあった所が、祖父の代から生活保護世帯が多いということなんです。私は新住民の口なものですから、そういうことを書かれたのが私も一番、何か読んでいて癪に障りまして、最後までその頁をタベ読んでしましまして、今の議論で世代別というのが出たらば、それをもう少し改善する方法を区も、我々も新住民ですからさっきちょっと出てきたけれども寝る場所と、私も仕事の場所と住む場所と全然違って、単身生活もしていたものですから、寝る場所というのが合っているな。ここに住んだ理由とは何かと言うと社宅の指定なんですね。ですから、サラリーマンというのはこういう人間がさっき出てました西新井のその先にいたものですから、サンドラッグ前を通う時に、いつかはここが綺麗になったらいいな。と思ったいたら良くなったていたし、今日もたぶんお客さんすごいと思うんですよ、西新井のイトーヨーカ堂。私は逆に忙しくてというか、人が多過ぎてしまっ行って行けない、行きたくないという世代になってきました。だからちょっと、世代の件をもう少しクリアに書いて貰って、我々サラリーマンからすると、日経新聞に書かれるというのが一番直して欲しいなと、今日は日経さん来ていないみたいですけど、配信されている足立さんのことですので、そう思ったのですが、改善もそうですし、我々メンバーもそうでしょうし、住んでいる人間も、何か手伝えることができれば、というのが一番の思いで私もこれに参加しておりますので、日経に書いてあった記事がそうだったものから。

私、町内会の役員をしているんですけども、回覧板を回す役なんですけど、実は回覧板もこの頃全部が会員というわけではないので、読まないで回してしまう人もいますし、回覧板を回すのが大変ホネなんですよ。それで読まないでただ回してしまう家が多いので、

できましたら消防関係の本、回覧が回りますよね、119番とかそれからいろいろな大事なことが回ってくるんですけど、これなんか読んで欲しいなと思うものも、回覧板で回すと読まないで回してしまうんですよ。ですから、ときめきとか広報とかどちらかに載せていただけるようにしていただけないでしょうか。消防関係だとか、他の役所の関係の事を何とか連絡を取って載せていただけるようにしていただきたいなと思います。宜しくお願いします。

今のご質問とは全然違う話で申し訳ないんですけども、一つ前の数字の話で、私、区庁の方で世論調査を担当している職員でございます。今日そういう積りで来ていないので、データを持ってきていないのですが、特に昼間先生に、記事にして頂くに当たって是非その、生の数字をお問合せ頂ければ余すところなく提供させていただきたいなと思います。今回ちょっと面白いのが、去年の9月にやった、最近・直近の世論調査、まだ出版はしていないのですが、愛着と誇りについて、という足立区のイメージについて、お聞きしたところがございます。愛着を感じているという区民の方が、確か67%、数字ちょっと正確ではない、記憶なので申し訳ないのですが、67%と70%に近い数字だったんですね。それで、誇りを感じている方が残念ながら40%を切るんです。このギャップは何だろうというところで、まあ、通り一辺の年代とかそういう分析はできるのですが、生の声はなかなか入ってきていないので、それがお聞きしたいんです。世論調査では一般の郵送による世論調査にも拘わらず51%という非常に高い回答率でしたので、足立区の区民の方が世論についても何か言いたいという、関心が高いな、ということがわかったと同時に81%以上の方が暮らし易いというふうに言っています。勿論杉並区だともうちょっと高いとか、他と比べてしまっちはちょっと問題があるのかもしれませんが、8割超えというのは非常にいい数字です。私共それから、足立区のイメージが、トップが緑が多くて心地良いというのが31.7%、同率で31.7%が犯罪の多い町ということでした。世論調査についてはこういうところだったのですが、私共ちょっと、世論調査をやるとどうしても、30代女性、50代・60代・70代それ以上の男女と、殆ど回答が偏ってしまいますので、20代・30代の男女だけ、若年層のみを対象とした意識調査を今回やっています。まだ集計途中でございますが約1000件回答があった中で、暮らし易いと感じている、20代・30代の若手の方は85%で足立区全体よりも高いんです。特に男性が暮らし易いという結果で高い。そしてずっと住みたい定住意向も50%を超えていて、男性の方は定住意向が高い。ただし、子育てしたいか、という時にやはり50数%なんですね。したいあるいはしていきたいと思う、ただ同じ数だけ、できればしたくない、という数字も出ています。それから、犯罪について、高い犯罪の町というイメージがあるけれどもあなたはどう思いますか、何故だと思いませんか、といった時に、何となくそういうイメージがある、というのが57%です。メディアがそういうふうな取り上げ方をするからが39%です。実際あなたは自転車の盗難に遭いましたか、というと、ご自分若しくは家族が盗難に遭ったという方がやはり53%です。ただ、調査を手伝って下さったりリサーチ業者さん



が名古屋の方なのですが、私も3回自転車を盗られました。リターン率というのは全然取っていないんですけれども、他の実態と比べて、大都市部で住宅のある大都市部だったら、むしろこんなものかもね、という数字でした。そのほか、環境への関心だとか、生活のゆとりなども聞いておりますが、私達がイメージしていたヤンキーな町、犯罪の多い貧困な町という、そうでは全然なくて、お金はあんまり余裕は無いけれども、時間的な余裕はやや出てきた。そして全体的にいい人、環境についても自分も何かやっているよという人がもう若い人8割・9割いる。それからお金より心、特に家族皆んなの幸せという幸福志向が非常に強いという、ちょっと意外なイメージなんですけれどもね。これは私共まだ初めてやった調査ですので、積極的に皆さんにお出していききたいななんて思いますが、是非そうした民の声も聞いていただければと思います。

では仕分ける方宜しく。

足立百景の編集の小林です。先程はご紹介いただきまして有難うございました。私が今年から足立百景の編集を担当することになりましたのは、ハローワークから、年齢はとにかく団塊の世代以上で、年金の受給者希望という条件で来ましたので、よくチラシが入っていますけれども、年金の受給者希望ということは要するに賃金が低いからそれでもいいか、ということで、オーナーに会いまして採用されたということなんです。先程話がありましたように、はっきり言って経営状態は非常に厳しい。一人で雑誌を作っていかなければならないので、これからどうしようかなと思っているところなんです。季刊誌ですから年4回ということで、次は3月の末に雑誌を出すということで今準備しているところなんです。私もこの雑誌に入る前は全くの部外者でしたから、足立百景ときどき図書館とか駅なんかで見て、ちょっとダサイな、素人っぽい雑誌だな、と思っていましたが、でもしょうがない、足立区だからしょうがないか、と思っていたんですけども、実際自分でやることになりましたら、やっぱりこれはさすがに一杯になってきて、今一生懸命リニューアルを検討しているところです。3月末には新しいものが出ますので、また期待していただければと思っています。

有難うございました。

全般で昼間さんの方からのお話について、若干の訂正というか追加ということと、それから業界上いらっしゃる方へのメディアとしてもっとやって欲しいよ、という声が少し聞かれたと思います。問題はやはり、先程の回覧の話もありましたけれども、情報の伝わり方が世代によって地域によって時代性というのものもあるのかも知れないけれども、大分偏ってしまっている、新聞は読まない若者がすごく増えているということもありますし、インターネットを見ないお年寄りが多いということもありますし、そういうことで同じ情報でもやっぱり非常にギャップがあるだろう。そのギャップがそれぞれの利益や幸福感とかかな、満足感とかそういったものとどういうふうに関係があるのか、そういうものがチグハ

グだと、足立区が住み易い、いつまでも住んでいきたいよ、と思う共同性みたいなものがどうも上滑りするのではないかというような感じもいたします。そういうものを纏めるのがやっぱりメディアなんですね。やはり主導的にいろいろ記事をそれなりに企画して纏めて発信することではないかというふうに僕は期待したいんですけども、その辺のことも踏まえて、では私達はこれから区民の為に区民のイメージの為にどんなことを考えて貰ったら、あるいは皆さんとどんなことを一緒にやっていきたいというご提案があれば、そんなことも中心にお話いただけたらと思うんですけども、具体的に折田さんの方から、例えば投稿ビデオは特派員的な考えというのはどうなんだというようなこともいわれています。それから足立百景の方では、例えばこの中に区民の生の声を反映させられるような、区民記者みたいな形の情報の収集の仕方も考えているよというようなこともお話を伺ったし、それからやはり、情報格差が非常に大きな問題になっていて、伝わり易いメディアのものだけが、流布しちやっっているということがあるのかもしれないという気がします。一応折田さんの方から順番の一つその辺のことで、何か言い足りなかったことをお願いします。

今作っている番組なんですけれども、この番組については、殆どが見て頂いている方とか、住んでいただいている方からの取材のご依頼なんですね。正直な話をすると、全部が確実に行ききれていない。半分以上捨ててしまっているというのが現状なんです。それを、非常に勿体無いことであるし、視聴者の皆さんとか、区民の皆さんから受けている期待を裏切ることにもなっていると思うんですね。そのジレンマが非常にある訳ですけども、やはり取材一つ、映像ですと、人が1人でいくだけでは済まないということがあったりとかありまして、どうしても物理的に仕組みの中ではやりきれていない。そんな中で、ルール作りは別として、やはり、どうしても発信したい方は、自分で撮っていただいて私達に投稿していただく、みたいなスキームが作れないか、過去にも何度か試みたんですけども、やはりそこを継続的にやっていくということが難しい。今回こういう機会を頂けてお話を少しさせていただくこともできましたので、もしほがらかネットワークさんの中でもそういうワーキンググループみたいなものが作られるのであれば、そこで私共とも、もう少し小さいスペースで、お話をした上で、何か映像なり、映像でなくてもいいと思うんですね。記事でもいいし写真でもいいし、そういったものをやりとりで、週に1回この番組のこのコーナーは、ほがらかさんのコーナーで、こういったことをPRしていきたいんだとか、そういったことができれば、さらにいろいろな情報発信に繋がるのかなと思っています。ただ、前提としていろいろなルール作りが難しい、ということがある、ということとは一つ付け加えさせていただきたい

私も今言われましたように、ときめきにはやはりいろいろな方から投書がありまして、特にうまいもの屋さんのコーナーというのはグルメが一番関心があるみたいで、こちらにあなただの推薦するお店をご紹介ください、といったことが書いてあるんですけども、もの

凄い数です。私10何年新聞社をやめてからやっているんですけども、15年目ですかね。スクラップ、これくらいの100枚くらい入るスクラップブックが3つ4つあります。もうとても行ききれないわけですね。もちろんお店の方は新規にお店を開いた方は、当然言ってきますし、取り上げて欲しい、うちはこんなに美味しいのがある、メニューはこうだとか、さらに店員の方スタッフの方が言ってきます。それから読者の方が一番公平な情報だと思うんですが、この店に行って何とかラーメン食べたけれど美味しい、これは是非うまいもの屋に値する、というような情報ですけども、もの凄いですね、繁盛して、それを全部行ききれないんですけども、できるかぎり全部登録というかスクラップしながら、ときめきは全部季節感とか旬とか、そういうものを基本にして、人々の関心にマッチする形で作らなければいけない、ということで、新蕎麦の季節はやっぱり蕎麦屋さん、どこか美味しい所は無いかとか、そういう選び方もします。家族連れで行かれる春とか秋はイタリアンの美味しい店が無いかとか、中華の時は中華とか、和菓子なんかはやはりお盆とかお彼岸とかですね。やはり季節に合わせたものを選んでいくのが当然なんで、そうでないと、とんでもない時にとんでもないことをやってもピタッとこないんで、それは心掛けていますけれども、全部行けないので、ご返事を出したいんですがなかなか出せないんですが、それこそ私のスクラップブックの中には行った感想というのが全部書いてあります。それで×とか△とか、△は保留ですね、これはまた変わる要素も当然あるんですし、接待の面で全然駄目だという人もいますし、区民の方が行って、こんな不愉快な店はないという、美味しくても不愉快だったらノーですね。候補、一応準候補があります。区民の方が猛烈に反対するようなものは取り上げられません。美味しくてもですね。お店の中でご主人が全部食べるものについて早く食べろという人がいるということですすごい文句が来ました。一回載せたことがあるんですけども。すごい個性が強い人で、一軒家で和食料理をやっている人店、もの凄く美味しいんですけども、凄く口うるさい。職人さんですよ。早く食べろとか、これはこっちが先に食べろとかいろいろと言われまして、たまたまちょっと私共気が付かなくて忘れてしまったんですけども、そしたら文句が来ました何度も来ました。そういうのがあるんですけど、やはりタウン誌、今、先程あちらの竹の塚というのは足立百景の方が言われましたけれど、やはり私は新聞にいたことがあってタウン誌をやりたいんですけども、皆さん方の情報がやっぱり一番ですね。我々千住に事務所があるし、住んでいるのが東綾瀬だし、取材で回っている時にはそんなにお昼食べに入るにしても、足立区内中回ることは不可能なんです。かなりの情報が殆ど皆さんの投稿を頼りにしてやっている。通信員制度というのを本当はやりたいんです。それこそときめき通信員みたいな感じで、皆さんから入って来る食べ物屋に限らないいろんな町でこんなものがあつた、あんなものがあつたという情報をどんどん入れたい。これがやっぱり一番やりたいですね。ですから私共はそれいまシステム的に撮れないんで、どんどん皆さんの方から言ってきて頂きたい。例えば全国がけしているおかげでですね、今回このホームページに出ているダイヤモンド富士というのが足立区で見られるのが1月19日が●●

の時点で、一番4時くらいにダイヤモンド富士が見られる格好のスポットがある。これを町づくり公社が町の景観ということで取り上げているので、私共積極的に出しているんですが、投稿を募集するともものすごいですね。たぶん写真この2件は読書の方なんですけれど、ビデオを撮ってこられて、自分がスタート時点から環七を回ってここのガソリンスタンドを回ってこう行って、都市農業公園に入って土手に行ったら100人いた。カメラを構えてこう上がっていくのを全部撮ってきたのでそれを見てくれ。ここの2番目に出ていく千住の方向かは何枚も撮ってきた。それから舎人公園でやっている方は舎人でも見れますよ、都立舎人公園の山の上で見れますよ、山とかちよとした高い所があるんですけど、そこで良く見えますよ。ですから本当に情報がやっぱり、どれだけアンテナを持てるかがもう全てなので、今日はたまたま閻魔祭、閻魔堂にこれから行かれるみたいですが、凄いな人が出ていると思うんですがね。私も子供のころ行って楽しかったんですが、その中で、閻魔様はあそこのお寺、今これから皆さん行かれるお寺以外にもう一つある。私今になって始めて知ったんです。千住にもう一つ金蔵寺という、落語を前にやっていたお寺で、無縁仏とか千住が昔旧街道だった時に飯盛り女が沢山いた、というのは皆さんご存知だと思うんですが。女性達が苦勞して本当に名前もわからずに亡くなった人達を葬っている無縁仏のあれがある、ということで有名なんです、蕎麦閻魔というのがあって、そういう名称もあるんだな、と思った。やはりあの、情報を皆さん是非整理して寄せて頂きたいということをお願いしたいのと、もう一つ言って申し訳ないんですが、私も実際に地域的な偏見が全くないまま来ているんですけども、足立区取材してみてもわかったのは、いろいろな名物が沢山あるということなんです。ですから屋間さんも是非その悪い点を取り上げるものいいのですが、本を読んでいないのでわからないのですが、たぶん取り上げているかもしれないんですが、いい所が沢山、名所旧跡みたいなのどころが一杯あるんですね。それを是非取り上げて欲しい。例えば今いった江戸5街道ですね、初宿とか、江戸5街道の一つである日光街道がありますね。その出発点である初宿の千住がある。尚且つ松尾芭蕉が上陸した、荒川区と論争があるみたいですが、上陸した所であるし、それとずっと歩いた。地域とかですね。でこれはもう本当にすごいところだと思うんですね。そういう所もありますし、さらにやっちゃ場という千住市場があり、尚且つ北足立市場という市場ももちろん、市場が2つ、東京都の市場が2つある。花とそれから野菜・果物・魚、その市場が2つある。いわば近隣の胃袋になっているようなところがある。それから目を楽しませる場所がある。さらに、伊興遺跡というのは東京が昔入り組んで海だった頃に、陸地の部分で凄く古い縄文時代の遺跡が出てきている場所なんです。素晴らしい、そういう場所であることがわかりました。さらに伊興寺町という町は関東大震災で焼かれた浅草上野の名寺が…

2A→2B (2本目反転) 全部あそこに集まっているんですね。林家三平師匠の墓もあるし

江戸の桂昌院、将軍(徳川綱吉)さんのお母さんの桂昌院の墓もあるし、塩原太助の

墓もあるし、いろいろなものがたくさんある。そういうところもある。それから都立公園で東綾瀬公園と舎人公園という凄い東京都の大きな広大な公園が2つもある。まずないんじゃないですかね。それから尚且つ、舎人ライナーというのが最近走り始めましたけれども、これは中々凄い乗り物ですよ。それに今日も関係している人がいらっしゃいますけれど、五色桜という桜が始まった発祥の地である。アメリカのポトマックに咲いている桜が、まさに足立区から出てきたものである。非常にいろいろなものがあるところなので、それを合わせて昼間さんには紹介していただきたい。それで今人々が求めているのは癒しだと思っただけですね。癒しの世界が広がるということなんだと思っただけで、足立区にはその癒しの要素が沢山あります。そういうことを是非紹介していただきたい。

我々足立の良さを皆さんに紹介する、あるいはそこで様々な困難に携わっている方がいれば、何らかのお手伝いができるように努力するという活動を活動の基本にしておりますけれども、まさに足立コンシェルジュ養成講座第1講で、私達は多田文夫学芸員に、足立区の成り立ちについて、勉強してきました。今ご紹介いただいたことについて、一部実地に歩いておりますけれども、第4講ではバスで、今おっしゃった所をグルッと回ってみようと思っておりますので、40人限定ですが、是非ご参加ください。

ついでにご紹介すれば、今お話があった芭蕉像がこの建物の1階入口脇に、移って来ました。それから、このあと都内でも非常に珍しい、未だに縁日が残っている、閻魔開きですね。その勝専寺の閻魔開きを見学していきたいと思っております。

実は僕は千住文化普及会で街ガイドをやっております、それで気が付いたのは、足立の人だけではない、自分達の地域に何があるかを住民が知らないということなんです。これは全く勿体無いことで、まずそこから始めなくてはいけないのではないかと思っております。

同じようにまだお話足りないことを、沢山これからお話いただきますけれども、この最後の頁を見ていただくとわかるんですけど、これは最近足立区が紹介された、犯罪や貧困ではない方の紹介記事ですが、素晴らしいんですよ。ところがここに品川区の水族館が同じように並んでいます。両方ともこれ1日の記事ですけども、こういうふうに並んでみますと、足立区は素晴らしいんですけども、住民にとって素晴らしい、子供にとって素晴らしいけれども、外部からあるいは品川区の水族館のように、人を寄せるようなそういう施設やイベントがあるのか、自分達だけで自足していいのか、それで我々の幸福感、満足感が満たされるのか、そういう感じがします。これは全く偶然ですけども、まさに足立と品川、こういう報道のされ方というのがあったら、ということを目に止めて頂ければと思います。

続いてそういう意味で、我々の生活の利便のための情報ということだけでなく、足立区のイメージが外部に発信されることで、住民に対するそれが本当のサービスになるのではな

いかという気もしますので、報道、広報として、足立区として、そういう面からはどんなことを考えていらっしゃるのか、どんなことをなさっているのということをちょっとお話し頂ければと思います。

いろいろ盛り沢山で、なかなか焦点を絞ってお話することが難しい感じですがけれども、今後の方向性も含めて、今皆様からいろいろご発言がありましたように、足立区には既存の資源というのが当然ありますし、それをどうやって知らせるかというのが、まだまだ共有されていないような面もあります。こういったことも、私共広報課の仕事なのかなと思います。それから新たな資源というのもこれから当然が出てきます。先程昼間先生のお話にあったように、新交通が整備されて、それから西新井、あるいは千住もそうですけれども、再開発が進んで、一定の都市基盤の整備がされました。その中で、今度は大学が、今年帝京科学大学が開学します。東京電機大学が平成24年ということになりますので、仮に24年に全部の大学がオープンして、学生がここに通うということになると、教職員も含めて1万人前後の人が回遊するというか、集まって来ますので、そういったマスとしての人の動きが出て来ると、恐らく町の作りなりソフトも部分も含めて相当な変化が出て来るのかなと思っていますので、例えば学生が1万人近くいる町に、ご飯を食べる所がどれだけあるのかとか、いろいろな連鎖が出てくると思いますので、それが一つの起爆剤になるのかなと思っています。そういった意味で、そういった新しい資源、あるいは既存の未だ知られていない資源をうまく皆様と連動して発信して行って、足立区の評価というものが、やっぱりほかから見てもこれはいい評判を取っているよね、という所を共有できると、さっき私共同僚の話にもありましたけれども、愛着から誇りに変わるんですね。分岐点になるのかなと思っています。そういった誇りを持てる町と一緒にしていきたいと思っています。その視点がなかなか行政だけからでは発信を出来ませんので、いろいろな地域にお住いの皆様方の、視点なり情報なりあるいはこういう発進力なりをうまく連動させて、対外的に区を売って、やっぱり足立区は凄いよね、という所にしていきたいなと思っています。それから併せて先程若干質問がありましたことを、若干お答えしますと、日経がらみの生活保護世帯のデータはどうなの、という話がありますけれども、基本的に私は福祉事務所にもいましたけれども、通常働ける能力があって生活保護を受けている人はありません。働ける状態であれば働いてくださいということで、生活保護は切ります。一見丈夫そうに見えても、実は病気にかかっているとか、精神的に病んでいるとか、いろいろな方がいらっしゃいますけれども基本的に可動能力と言っていますけれども、働ける人には働いていますので、世代間の連鎖は基本的に無いのかな。それから回覧板の件ですけれども、なかなか区の広報誌の中に、全てを網羅することは出来ませんが、例えば火災報知器は義務付けされまよすね。そう言った消防署の情報については随時広報誌あるいは千住の駅前にあるシティビジョンですね、ああいった所でも放送していますので、そういったことで連携していければと思います。宜しくお願いします。

更に、この際こんなことを聞いてみたい、こんな要望があるんだ、ということ会場からもう少し募りたいと思いますが。ラジオを聞いていますと、足立区の何々さんから、というような、リクエストは凄く多いんですね。足立区の人にはラジオを聞きながら仕事をしている人が多いのかなとか、あるいは逆に発信したい人が多いのかなとか、あるいは人口が多いからなのかなとか、いろいろなことを考えますけれども、そういう意味ではやはり双方向的な情報交換ということが、いろいろな共同性とかイメージアップとか暮らし易さとか愛着とか、そういったことに結びつくのではないかなと思うんですね。この際、メディアを、責任を持ってやっていらっしゃる方に対して、まさにラジオの視聴者のように、私達の声みたいなものがあれば、この際少しお話頂ければと思いますが。

最近ドイツから帰ってきたお友達から下北沢は世界で知られているのに、何で千住は知れないんだろう、それから下北沢は前に行ってみましたけれども、道は狭いし、込み合っただけでゴミゴミしていますし、決して地理的に、物理的に見て千住とどうなのというものは無いし、狭いからとか所得が低いから、そういう意味で知れないということではないのではないかな、と思うんですね。吉祥寺もそんなに道が広かったり、かっこいい町ではないんだけど、やっぱり知れ渡っているし、吉祥寺の近くはマンションも100万円くらい違うらしいんですね。何で違うんだろう、というようなところを疑問に感じたりするんですが、情報発信の面で随分差が付いてくるのかなあ、と今感じています。そんな所も考えながら、千住の情報発信の在り方によっては可能なのではないかな、それなりの材料は一杯あるのかなあ。と思ったりしております。

いま、足立朝日の市川さんに、話を向けようとしておりますが、実は、今回のパネリストとして足立朝日さんからもお願いしていたのですが、いろいろな事情があって、折角町を取材して回っている方々が、時間なかなか取れなかったようですが、今日ここにいらしていただいていますので、取材して回って足立区からどういう情報が発信できるか、どのような心持ちでお仕事をされているかについて、一言何かお話頂きたいと思います。

足立朝日新聞の記者をしております市川と申します。

足立区全域を取材して回っていますと、特に若い方というのが、足立区のことを以外と愛着を持った方が結構いらっちゃって、その方は積極的に活動されていますね。特に皆さん足立区にコンプレックスを持っているというわけではないんですが、やはりイメージの悪さというのは感じていらっしゃるようです。確かに地域によっては町に結構にゴミが落ちているとか、ゴミが落ちていると言うことは、地域の皆さんが、公共のゴミに対する関心が低いという所もあると思うんですね。確かにそういう地域もありますし、千住のようにプライドを高く持っている方もいらっちゃって、町に対する愛着が高い、そういう地域の

中での差というのにも出ていると思います。私共の新聞はいろいろ区内で活動されている方の、区内でしか発行していない新聞ですので、区外の方に発信するということが非常に難しいんですけども、活動を少しでも紹介して、それがまた区外の方の目に留まってそこからいろいろと広がっていくことを願って、細かい取材をしています。

ほがらかネットワークの方に所属しております田淵です。広報課長の方に質問なんですけれども、今凄く大学を誘致したりとか、区の方で何らかの意識的な、ここ数年見ているとイメージ作りを意識していらっしゃるのかなあ、という気がするんです。確かに先程お話があったように、例えば国立の方とかに行ったら、全部が凄い大学の町ではなくて、その一部分だし、杉並と行ったってやっぱり一部分だし、というのは凄く痛感していて、そうすると足立区は今、こここのところいやに大学とかいろいろなもの、それから元の区役所の位置の所に、今までの足立区とは違ったようないろいろなものを作ったりとかしていらっしゃるの、それを何か意識的にどんなイメージかがあって作っていらっしゃるのか、足立区といってもすごく大きい所ですから、その辺がもしこういうような構想で、今こういう段階をやっている、今後どういうふうにイメージはあるというのがあったら、教えて頂きたいのですが。私も足立区で実は生まれたのに、どうも人と話していると陸の孤島ですとか、川向こうですとか言っている人間で大変申し訳ありません。

難しい質問ですけども、基本的に区の方は基本計画というのがあって、その基本計画に基づいて町なり仕組みを作っていく、というのが行政体の一般的な流れなんですけれども、ここ数年は、例えば千住でいえば、文化・産業・藝術副都心構想といった計画がございます。それに則りながら進めてきた、というのがあります。大学の誘致については、これは足立区の念願の誘致だったわけです。暫く大学機関そのものがなかったという時代がありまして。それと併せて新交通、例えばTXそれから日舎線もですね、地域の皆さんの要望が出てから相当な年数を掛けて漸く実現したというようなところがあって、そういった一つのジャンプする土台が今整って来まして、その土台（スプリングボード）から飛び出す為の、一つの引き金が千住の位置付けにもなっているのかなと思います。千住に限らず他の地域でも当然ありますし、例えば西新井でもああいった大型開発が進んで、今は駅前のミライズ西新井ですか、ああいった大きな宣伝がされていますので、町としての人を引く力が徐々に付いて来ている感じがします。行政がすべて主導するということではなくて、それを一緒に、連携を図って一緒に発展していきながら、区のイメージを発揮していきたいですね。というのが現状です。特に私共の方は、千住がこういった形で大学が揃い、また千住の東口の方に大きな電大というのが来ますので、これを一つの起爆剤にして足立区全体のイメージアップを図れないかというのが、現時点での課題になっています。

私だけかもしれませんが、そんなに危機感ではなくてもいいわけで、統計数字を見



ながら生活しているわけでもありませんしね。そんなことよりも、日々の生活の中で、現実にはいろいろと悩んでいる人もいるだろうし、もうちょっとそういった現実を目に当てるのも一つなのかなと思うんですね。最初のところから統計数字だからというので、ネガティブにいろいろと話がありましたけれども、だから何だと思います。私も61年有余、足立区に生まれて育って住んでいまして、此処ほどいい所はないので、仕事だけは区から出稼ぎに行っておりましたけれども、ここを出ようとも思っていないし、親の代からここで骨を埋めるつもりで、私がこれに参加した一つに、先程町内会の回覧板の話がありましたけれども、私も町内会の関係をやっているんですけども、回る家の6割が一人状態なんです。そのうち足の悪い人が何人かおられるんですね。回覧板というのは隣の家に持って行かなくてははいけません、順番に。足の悪い人は大変なんです。そうすると、娘さんと呼んだりして回していくわけですね。そういった意味ではこういった「ときめき」というのはいいと思うんですね。入って来るわけですから情報が。情報が入って来るのを求めている人と、自分から出かけて行って情報を掴む人と、区の中におられるわけなので、やっぱりそこをもう少し、行政と我々住んでいる者とが一体となって情報の整理をしたり、それから本当に求めているニーズの所に、情報を届けてあげると、例えば避難訓練なんかやっても、そういう方は出て来られないわけですね。だけど、私が例えばそういうのを勘案して行って玄関で立ち話をすると、そういう人は、実際に最近大きな地震がありましたけれども、そういう時にどうするの、という話があるわけですよ。そういったものは、地域で支えて、声を掛け合うとかですね。ところが、もう一つ問題は、アパート住いの方の中には町会に入っておられない場合がある。というのは出入りが激しいですから、家主の方が把握しておられませんか、町会に入っておられない、町会費も払っていない。ではそういった人達にもどうやって声を掛けるのか。いわゆる行政サービスを広範にということでは、漏れなくというと、どういうふうに声を掛けたらいいのか。こういった所に非常に疑問に思っているのが現実です。ここを何とかしたいなと思っているので、あまり統計数字がああだとかこうだとかいうのは、どうなのかという感じがします。

とても貴重なご意見を頂いたと思います。我々も何故こういうことをやっているかといえ、情報をどうやって介在出来るような、そういう役割が担えるのだろうか、ということを考えております。例えばこの第3講では、足立区には様々な相談窓口が行政としてある。すごく充実していると僕は思うんですけども、そこに辿り着かないんですね。区民が、これは勿体無いことなんです。そういう時に地域の、かつてでいえば町内会だったかもしれないけれども、もう少し事情がわかって、あるいは自称、愛すべき努力をしている、そういうグループなり人が、何とかその間に立った相談事や問題を翻訳的に伝え、出来ればお手伝い出来るというような、そういうことも出来る余地があるのかな、ということを探る、そういう講座の一環だとかご理解頂ければ、今のご質問、ご意向と、それから、今日何故その情報が伝わることとか、それからされていくことが意味を持つのかということ

とが、まさに理に適うご質問だったような気がします。やはり地域を愛し、隣人を愛さないと、なかなか人が困っていても、そこに手を差し延べる気にもなりませんよね。そういうような所から始めるべきかなという、地道なつもりでおりました。

昼間さんに外から見た目、そして今日こういうような地域のメディアに携わっている方、あるいはメディアから様々な情報を得て、この場に集まった皆さんに、今日の話の踏まえて、何か提案なり、感想なり頂ければと思います。

会場からもいろいろと参考になる話おありまして、非常に有難く思いました。有難うございました。この間、添田さんと打ち合わせをした時も、メディアを通じて何ができるのか、ということとかも考えてくれという話も有りまして、考えてみて、下がったのもあるんですが、一つやはり外に向かって発信していくという意味では、やはりインターネットというツールが、誰でもできてしかもお金があまり掛からないということですね。非常にこの間行政さんとかも予算がいろいろと削減とかで大変であると思うんですが、最近鳩山首相が始めたことで話題になっている、ツイッターという携帯電話なんかでも見られる140文字で好きなことがいくらかでも書ける、140文字毎に1回投稿ボタンを押して人に見せるようなシステムなのですが、ブログがもっと小さくなったものですが。されている方も多いのかなと思うのですが、どうなのかな。例えば区長もこれやって入れたらどうなんですかね。と思ったんですけど。(一応ブログはやってはいますが！あれはネット上です) やはり見易いのと、鳩山首相がやり初めてから期待していたら、1日1回しか書かないので、基本的に文字数が少ないので何をやるかといったら、丁度この、公社ニュースの11頁がインフォメーションになっていましたけれど、これ区長が呟いて、要はそこに直に返事を返すやりとりができるので、実際に会って何か区に要望を出すとかいうと、またいろいろと手続きが面倒くさいとか、いろいろとあるのかもしれないのですが、手軽に出来るのではないかと思うので、むしろそういったことをケーブルテレビの番組にするのも有りなんですけれども、常に月1回位で区と区民の皆様が対話するのを番組にするとか、若しくは区民の方からの苦情を全部番組にして、一覧でこんな問題が有りますみたいな、だからどうしましょうということで、区民の皆さんにもお知らせして、一緒に考えるスタイルとかも取れる筈なので、活用する方法も有ると思うのと、あと東京電機大学が来られるということで、産学官の連携というのが、もう全国的に今非常に、ごく当たり前に行うことができる便利な世の中になっているので、非常にメディアを使って発信するという研究をしている理系の大学とかも増えていますので、そうした所の学生を使うとタダでできるので、先程川口の方もお金が無いので大変だと言っていたので、むしろ書きたい人で外部の人とかからも、足立区に行って取材をしませんか、ということで、やってもらうというのが、逆に様々な視点ができて面白いのかなと思いますので、試してみる価値はあると思います。もう一つですね、日本脚本アーカイブス倶楽部は前から私も存じていたのですが、毎回流行った作品とか、市川さんとかを呼んで、これは非常に面白いですよ、一過性のもので終わってしまう危険があるので、むしろそこに行政主導でもいいんで

すけれども、脚本を書いて実際に作品を作って貰うまで、そういうことにして、できた作品をケーブルテレビで流すとか若しくは足立区で賞をあげる、とかいうシステムまでやった方が形になれるのではないかと思っていますのですが、多分この1回ずつ早坂さんとかが来て、脚本の書き方を講義しても、多分そこで納得して終わってしまう危険性が高いと思うんですが、あれ何処でしたっけオジーライダーという映画がありまして、北海道でしたっけ、70位の町を引退した爺さんが集まって皆で映画を作るということをやったら、これが当たって、東京にも出て公開をして話題になったという件が去年ありましたので、試す価値はあるかなということで、この間添田さんにお伺いしましたら、ここの施設でも映画とかビデオ編集できるシステムが全部揃っているというお話ですので、インフラは整っているから、あと、やり方を何回かに分けてレクチャーして、目標をある程度いついつまでで作るとこういうことにして貰います。例えばシアター銭湯で公開できますというシステムにすれば、当然足立区をテーマにするということで、足立区ガイドからということもできるのではないかと思います。やはり大学もできるということで、やはり町の中にもっと一般の人が溜まれる拠点というのを作っていった方がいいかなと思いますので、今日は自己宣伝ですが、僕はお休みアンモナイトという映画で脚本もやっております、僕の友人で、松本ハジメという男がいます、今、高円寺で古道具屋をやっているのですが、何故古道具屋を始めたかというのですね、高円寺の北中通りという商店街がありまして、駅の傍に風俗街がありまして、その奥なんで、寂れきって店がみんな潰れてしまった。折角だから、若い人に誰かタダでもいいから貸して貰おう、他の商店街はお洒落だから若い人だったら何か店をやってくれるだろう、ということで、そこへ松本君は当時古道具屋でバイトをしていたので、それはいい話だと聞きつけた、僕に貸して下さい、と言って友達と何人かで古道具屋とその向かいに古着屋を始めたらすね、これが図に当たって、基本的に溜まり場とされるわけですが、さすがに古道具屋に溜まられると仕事にならないので、最近向かいにカフェをオープンしまして、一杯コーヒーが200円とかで、非常に適当な店なんです、そこで上映会をやったりして、溜まり場になっているということで。そういった溜まり場的なところがある方が、どうも最近逆にネットが流行っていてネットだけで完結してしまう人が多いので、外に出てここに行けばいつも誰かがいて話せる、大学の部室のイメージ的なものをもっと町の中にくっつか、様々な年代の人が作れる形で作っていく価値はあるとおもいますので。例えば行政とかで空き店舗でここは誰か何かに使って下さいというような、アクセントシステムを作ってくれるといいのかな。僕も何かやりますので、参加させていただければいいなと思っています。

(添田さん) どうも有難うございました。

一応なにか中締めみたいな話になってしまいましたけれどもさらに、では、我々はこれから足立コンシェルジュなる非常にわかり難いかもしれない、こ洒落たつもりの役割を担おうではないかという、養成講座というふうに銘打ちましたけれども、これは要するに地域の様々な活動をなさっている方や、まさに日々の暮らしの中でどんな問題があるかという

ことを見つめたり、あるいは実際に活動したりする人が、何丁目の何ていう町にこんな人がいるよ、というような、そういう人たちのネットワークができれば、様々な問題解決の輪が広がるのではないかと夢想しているわけですね。それから現にあるメディアで、現に活動している、それも…

2 B→3 A (2本目から3本目へ)、楽しくやっているのかを伝えてくれれば、そこにいろんな形で、地域に帰ってきた団塊の世代を中心とした人達も参加しやすいのかな、という気がします。一緒にやっていくにあたって、もし具体的にあなた達にこんなことをやってもらいたいんだよ、みたいなことがあれば、ちょっと纏めの話になるのかもかもしれませんが、

あのまあ、具体的な提案ということだったので、今やっていることをちょっとお話ししますと、広報誌、皆さんご覧になった方も、1月1日号ですね。区民の皆さんの投稿した写真を使っています。1面ですけれども正月、1日元旦ですね。区民の皆さんから携帯で送られてきた写真を掲載しています。そういった今添田さんが見本をお見せしていますが、今携帯は皆さん必需品で各自お持ちになっているかと思うんですが、これは先程の話なんですけれどもツイッターも使えますよということで、携帯もひとつの有力な手段ですし、皆さん既にメールも使っているかと思うんですが、そういった形で私共の方は、携帯でこの足立区の資源なり見所があったら、どうか投稿して下さい、というのを今やっています。今回の1日号に向けた写真、抱負を語った写真をお送り下さい、そういったことで皆様の投稿を受けながら、ホームページの方に掲載をして、尚且つタブロイド、ペーパーの方にも併せて掲載して、一種のメディアミックスの仕掛をしています。これは、去年の花火大会から始めたものですが、花火大会の映像を送ってよね。ということで送っていただいたところから始めています。こういった参加型をうまく企画できるようなものがあれば、また皆様のご提案を頂きながら双方のコミュニケーションをはかりながらやっていければ、というのが思いとしてはあります。

お願いというか、番組作りは情報が命だということも非常にあります。皆様方から活動されている情報を私共にお寄せ頂ければ、それが番組の活力になって、より良い見易い番組になって、更には情報伝達のツールとしてどんどん発展していくと思っておりますので、先程は情報を貰っても捨ててしまう、ということが多いと思うんですけれども、他の民法さんの番組、新聞でいっても大きな所、投げて貰ってもなかなか取り上げて貰えることが少ないと思いますけれども、それに比べればうちはもう少しは活かさせていただくことができると思いますので、是非小さな情報でもいいので、ケーブルテレビ足立までお寄せいただければ番組作りに反映させて頂きたいと思っておりますので、是非宜しくお願いします。

あと会場からもこういうメディアに携わって、こういうことをやりたい、ということがあれば。

NPO法人五色桜の会というものを立ち上げました大久保と申しますけれども、五色桜の物語は、最近メディアでも取り上げられているので、皆さんもご存知かと思うのですが、100年前に明治33年頃は世界中に知れ渡った桜の名所だった、というような事も知られておりまして、それが今忘れられていることも多いかと思えます。その中にはそれを成し遂げた人達の人間ドラマがあるものですから、それを歌にしたりあるいはミュージカルにしたりしたいな、というようなことがあって、統一の目的というのはこれから子供や孫たちが、グローバル化の中で世界の中で活躍する人もいるだろう。その時にご出身はと言われた時に足立区です。と言ってその後続く言葉として、桜で有名な所でね、世界にも行っているのよ、というような、それから去年から桜祭りが始まりましたけれども、お爺さんもお婆さんもお母さんも皆んな、桜祭りの準備でいそいそと頑張っているのよ、私も桜祭りに行って楽しかったわ。というような自己紹介ができる町にしたいなと、そんな事思っ、歌をうたいたい人は歌で、あるいはお酒屋さんはそれに因む酒で、お菓子屋さんにはそれに因むお菓子で、足立区を桜で活気付けられないだろうか、というふうに考えて独自の歌作りとか、五色桜物語の女性の講談師が語る講談が最近出来上がりました。少し構成をして、春にはもう全国あちこちで語りたいていっておりますので、皆さんからもいろいろなご意見を頂きながら、皆んなで参加する桜に対して、歌だったりミュージカルだったり桜祭りだったり、そんなことをして行きたいと思えます。3年後には2011年は足立区からアメリカに行って100周年になります。その前の年は江北の桜堤ができて125周年になります。そんな時期もありますので、是非この物語を足立区の宝として伝えて行きたいな、と思ったりします。いろいろなメディアさんとも協力しながら、そんなことを考えて行きたいと思っております。失礼いたします。

そろそろ4時になろうかとしております。期待した以上に皆様からの活発なお話を伺うことが出来ましたし、今日はパネリストとしてお話をいただいた皆様に、お忙しい中時間を取って頂きお話を頂いたことに、心より感謝したいと思います。

今日は誠に有難うございました。昼間さんには是非今日の話を踏まえて足立区イメージのためにご奮闘願いたいと思えます。●● 激励の拍手をしていただきたい。

本当に今日は長いこと皆さん有難うございました。我々ほがらかネットワークは微力ですが、足立区の中で何ができるかを探りながら少しずつ動いていきたいと思っておりますので、皆さん是非ご協力の程お願い致します。

今日は誠に有難うございました。

(このあと閻魔開き見学を中心とした千住の町歩きで終了)